



民主主義への道 4

理事長 千葉忠夫

・屋根裏の小作人部屋で

—思わず口ずさんだ「ふるさと」の歌—

夕食を終えると家族の者がテレビを見たりしていたが私は疲れ果てて自分の部屋で一人になりたかった。言葉が通じないと相手たち、家族の者が何を話しているんだろうと絶えず想像力を働かせなければならぬので精神的にも疲れた。

屋根裏の小作人部屋に入ると自分の世界である。日本の家族や友人に手紙を書きたいと思ったが、農家の一日の仕事を終えるとそれどころではなかった。机に向かったまま寝てしまった。

豚の世話、畑の耕作、じゃがいもの植え付け、除草、畝寄せ、と毎日の日課も覚えてくるにしたがって、葛藤も大きくなっていく。

特に豚の肥やし出しをしているとき、「何で俺はこんな臭い仕事をしなければならないのか？」と自分に問う声が聞こえた。私の顔をジロリとみた豚どもは喋るのだ。「お前はおれたちの国の社会福祉を学びたいそうだがデンマーク語もろくに喋れないじゃないか！」と生意気な一匹。「福祉の勉強なんて出来る訳はない！おまけにお前は無一文だろう！教育費はタダだが生活はどうするんだよ？」と睨み付ける屠殺寸前の長老豚。ああ～！まさに豚（とん）走りたい思いにかられた。

男たる者志を立てて故郷を出たからにはおめおめ豚などに負けて逃げるわけにはいかない。思わず我に帰った私は、豚どもに大声で俺は豚じゃないぞ、少年のころ兔を追った故郷から志を抱いて出て来たのだと、「ふるさと」の歌を口ずさんだ。8月、農家に入って3ヶ月ごろからなんとか家族が喋っている日常会話が想像力の助けを借りて多分こんな事を言っているのであろうと分かるようになってきた。

8月からデンマークは新学期である。長女のマーキットが一年生として国民学校に行き始めた。担任の先生に自分の家には日本人がいると話したのだろうか、しばらくしてポールが「英語を話す先生だから訪ねてみたら」と言ってくれたので車のない私は農作業用のトラクターに乗って三キロ離れた先生のお宅を訪ねたのだ。先生の奥さんはイギリス系マレーシア人で第2次大戦中、日本の兵隊に両親を殺されたと言った。

・アジア人だから東洋的な食事を

「第2次大戦中に両親を日本の兵隊に殺された」と言いながらも、奥さんが決して私を責めようとしているのではないことは彼女の表情から察せられた。私は同じ日本人が、と申し訳なく思ったが、同時に同じ日本人ではあるが殺したのは私ではない、その私がなぜ謝らなければいけないのかと思った。奥さんだって私が日本人であることを承知の上で呼んでくれたのだ。私に謝罪を求めるために呼んだのではない。そう自分で納得したとき私の口から「ご両親を日本兵のために失われ、さぞお恨みでしょう。I am so sorry」という言葉が出た。「あなたに謝ってもらうために来ていただいたのではないのよ、私はデンマーク人と結婚して、こうしてデンマークに住んでいるけれど、あなたも私も同じアジア人だから今日は東洋的な食事を作ってあげるわ」この言葉を聞いて、私の心の中のわだかまりは消えた。

旦那さんの先生の名はヨーン、苗字はヨーンセン。奥さんはリタ。マレーシア人には違いないのだが英国人と混血なので顔つきはヨーロッパ型で、髪も惚れ惚れするような金髪をしていた。

・「ミスターと呼ぶのはやめてくれ」

「Mr. Jørgen, may I ask…」と言いかけた途端に、「ミスターと呼ぶのはやめてくれ、ヨーンとだけ呼んでくれていいんだ」「??????…。日本の中学校で英語を習った時、Mr. を付けて呼びなさいと言われたのに何故？」「君と僕とは対等、人間としてイコールなのだから！」なるほど！これがヨーロッパの人間の平等性ということなのか。26年間も住んでいた日本から来た私は、デンマークに来て先生である目上の人を呼び捨てにすることに抵抗があった。

そういえば農場主ポールも、先生でも、警察署長でも、医者でも臆することなく互いに対等にファーストネームで呼び合い話していたことに気がついた。名前を呼び捨てで呼び合う仲に、日本のさん付けと同じ意味あいがあると生活を通して納得するまでにはさらに期間を要した。



ヨーンとリタの家での夕食は外米のご飯をカレーで炒めたようなものだった。ものすごく辛かったことを覚えている。

夕食後にやはりヨーンから聞かれた。「Chiba、おまえは何しにデンマークに来たんだ？」毎日豚と付き合っていると、学校へ行って書物と付き合ってみたくてひしひしと思うものである。「実はデンマークの社会福祉を勉強したくて来たのだが…、デンマーク語が出来ないので多分に欲求不満に陥っている」と私は答えた。「ハムレットのモデルの城のあるヘルシンガーという町にインターナショナル ピープルズ カレッジという学校 (International Folkehøjskole) があって、そこでは英語で授業をやっている。そこへ行ったらどうだ」と助言してくれた。

・初めて国民高等学校を訪ねた

次の週末にその学校を見に行こうと誘ってくれた。むろん私は一も二もなく大喜びで翌週の日曜日彼らの車に便乗して学校を訪ねた。

その学校は全寮制で世界中の国から来た若者達が一番学びたいことを主に学んでいた。在学期間も三ヶ月と六ヶ月があり、手始めの勉強の場として手ごろであった。

この学校が世界に例のない国民高等学校 (Folkehøjskole, 市民大学) の一つであるということも、この種の学校は今から160数年も前にデンマークに出来たことも知らなかったが、ただひたすらに私は豚から解放されたかったので、その場で半年先に席のある学期に入学を申し込んだ。問題は授業料の支払いだ。デンマークでは一般に教育費は無料だが、この種の学校だけは有料である。

農場に住み込んだ時点で日本から持ち出した500ドルの残りをデンマークのアンデルス銀行に預けておいた。その分がちょうど三ヶ月分の授業料になる計算だ。

ところでアンデルス銀行とは農協銀行のことである。そういえば、デンマークはイギリスと並んで1880年代の後半にいち早く農業協同組合を作った国でもあったのだ。農業協同組合運動が社会福祉国家への基盤を築いていったということもそのころは知らなかった。

半年後の1968年1月から学校へ行けると決まって、それまでにできる限りデンマーク語を憶えようと励みもつき、毎日の豚どもとの付き合いもあまり苦痛ではなくなった。

・家族の間で割り切る金銭関係

ーじゃがいもを買いに来たポールの妹ー

夏から秋にかけての農場での大仕事は農作物の収穫作業である。じゃがいも、ライ麦、とうもろこし etc. 収穫もすべて機械でやるのだ。じゃが

いもなど手でしか掘ったことのない私にはトラクターで牽引するロータリー式の芋掘り機は珍しかった。私の仕事は石ころとじゃがいもを選別して箱詰めにするのであった。

収穫したじゃがいもは摂氏4度の収納庫に集積され出荷を待つ。そんなある日、コペンハーゲンからポールの妹が訪ねて来て、帰りがけに主食であるじゃがいもを10キロばかり欲しいと言った。私が10キロ測って渡すとポールの妹さんは「おいくら？」と聞く。「えー、妹さんだものタダじゃないの」と思いきや、ポールはしっかりとじゃがいも代金を妹さんから受け取ったのである。日本的に考えると妹には主食の米なぞくれてやるだろう。日本的考えとはなんなんだと以後生活を通してデンマークと比較して考えるようになった。

親子、兄弟間でも金銭的にはマアママという関係はなく、割り切って付き合いが行われていると知って、驚いたり、感心したりであった。一般的にヨーロッパでは金銭に関しては個人と個人の関係であり、血のつながりは関係ないというのだ。

そういえば割り勘のことを英語で言えば、Dutch treat, Let's go Dutch だから、もしかしたらオランダ人はデンマーク人よりももっと金銭に関しては割り切っているのかも知れない。日本でも親子、兄弟であっても金の切れ目は縁の切れ目とやら言われているので金銭関係に関してはヨーロッパ人に学ぶところも多少はあるだろう。

しかし、この金銭関係で逆に物足りなさ、寂しさを感じる時もある。私の息子、娘がいまだ10代後半なのに、親の私に子供手当がなくなるとお金を貸してくれと言う。毎回では困るが、たまには子供に小遣いをあげたいと思う日本的な気持ちが崩されて、何か割り切れない哀しさが残るのだ。

・デンマーク人は働き者。日本農業は庭仕事？ ①

8月の中旬ごろから麦の刈り入れが始まる。刈り入れといっても鎌で刈るのではない。戦車みたいな大型のコンバインで5メートルくらいの幅を一度に刈っていくのだ。コンバインは刈り入れと脱穀を同時にやっていくのでコンバインの側をトラクターに牽引されたワゴン車が走り、脱穀された麦はワゴン車に山盛りになるまで積み込まれる。麦の収穫はいちばん乾燥した日を選ぶので収穫日は夜遅くまで作業が続く。身体中に麦の穂が刺さり、鼻腔は埃で詰まる。のどは渇くし、作業終了の声がかかるのがものすごく待ち遠しかったことを思い出す。脱穀が終わった麦わらは後からついてくる麦わら束ね機で四角い束にされ、積み木を置いたように等間隔に並べられていく。更にその後続く他のワゴン車に積み上げられ、畜舎の二階の納屋に収納される。デンマークの農民は本当に働き者だ。

この手記は月刊「権利闘争」(権利問題研究会発行)にて連載されたものです。転載の許可をいただきました関係者の方々に感謝いたします。

住みよい幸せな国づくりのヒントを探して

仙台大学客員研究員 高橋まゆみ

(デンマーク在住)

【第四話 デンマーク語学校のターニャ先生： 自信をつけてくれる授業】

先生：こんにちは (Hej!) 私はターニャです (Jeg hedder Tanja!)

あなたの名前は？ (Hvad hedder du?)

受講生：私の名前はまゆみです (Jeg hedder Mayumi.)

先生：あなたはどこから来ましたか (Hvor kommer du fra?)

受講生：私は日本から来ました (Jeg kommer fra Japan.)

デンマーク語学校では、このような会話は初めて会う人と挨拶のように交わされます。そして、どこに住んでいるのか、なぜデンマークへ来たのか、仕事をしているか…と決まったように会話のフレーズが続きます。とにかく何かを話さなければ前には進みません。Tanja (ターニャ) 先生は言います。「デンマークの社会で生活するには、デンマーク語でメールや文書類を読み書きできることは大切なこと。でも、もっと大切なことはデンマーク語を駆使しても自分の意見を述べ、納得いくまで相手と話し合い、問題を解決していくこと。また、日常生活でピンポンのように会話を続けて互いの情報交換ができるようになることです。」住みよい幸せな国づくりのヒントは、当たり前のことながら、一人一人が互いのより良い生活のために、自ら判断しそれに対して責任を持ち生活することであると気づかされます。

デンマークは、人道主義の観点から、長年にわたって毎年数千人の難民を受け入れてきました。難民・移民政策の経緯についてみると、2001年11月以降厳しい規制強化が行われましたが、2011年には家族呼び寄せや難民受入の面などにおいて対応が若干軟化しました。しかし、2015年欧州難民危機を受けて難民の家族呼び寄せ開始時期の延期や永住権取得条件の厳格化等、再び難民・移民政策が厳しくなりましたが、一方で難民のデンマーク社会への統合を促進するための施策を実施するなど、今まさにデンマークはチャレンジの時期を迎えています。このようなニュースに個人的にも神経質にならざるを得ません。しかし、デンマーク語を話し、デンマーク文化・社会を受け入れようと努力する人に対してデンマークは人種を超えて寛大な国だと思います。難民は基本的に住宅、生活資金、デンマーク語教育(無料)、医療(無料)、大学までの教育(無料)、職業訓練、個別相談、就職斡旋、児童手当を受けることができます。

デンマーク語学校では、デンマーク語を母国語としない様々な背景を持つ外国人が学んでいます。難民支援としてのデンマーク語教育の目標は、「仕事を得て自立した生活」にあります。そのためには、まずデンマーク語をマスターすることが必須です。デンマークの教育は社会が求める自立した人間像・人的資源と密接に関わりを持っており、デンマーク語教育もまた Job og Vækstcenter (職業訓練開発支援センター) と連携して難民・移民支援をしています。語学学校の教員は、デンマーク語を母国語としない外国人成人を対象としたデンマーク語の教授法やデンマーク語理論の専門資格が必要です。Tanja 先生は今の語学学校で6年半勤めています。コペンハーゲン大学で現代ギリシャ(語学・文化・文学の修士課程)の教育を修了後、この仕事を得た時、外国人成人のための語学教育の専門資格取得が条件でした。そのため最初の2年間、週に1日コペンハーゲンにある教育大学(修士課程)に通い、後の4日間は語学学校で授業を担当する日々だったと言います。私たちがこの先生を「スーパー・レア(先生)」と呼ぶほど教え方が抜群に上手!先生の教える熱意は受講生に響き伝わり、デンマーク語で話すことに自信を持たせてくれます。とっさの質問にも分かり易い事例を交えながら、体全体を使い丁寧に教えてくれます。デンマーク人の Tanja 先生は、「幸福な国デンマーク」について「生活の最低限のことは守られるセーフティネットがあり、また医療や老後の心配がないという点では安心して暮らせる国だと思います。しかし、近年、労働政策が厳しくなり職場でのストレスを抱える人々が増えているという点では問題があると思います」と答えてくれました。

素敵なお顔の Tanja 先生



授業の様子とクラスメート
(シリア、ザンビア、アメリカ、イギリス、日本)



鹿児島研修塾報告

講演「破綻からの奇蹟」 講師 森田洋之氏

初日の夕食後に行われた医師森田洋之氏の講演要旨を報告します。

2015年6月の日経新聞に載った10年後に病床を20万床削減というニュースをどう思うか。とんでもないことだと思わないか。10年前夕張市は財政破綻で171床からわずか19床に減った。それで市民の健康はどうなっただろうか。



夕張は札幌から60km、急流と切り立った山々に囲まれた、アイヌも住まない雪深い土地。そこに炭鉱が見つかり12万人が移住、命がけで働いたがエネルギー政策の変更で閉山。急激な人口減少が起きた。(→9千人)高齢者は住み慣れた家に残ったので高齢化率は日本一の48%に達した。

2007年、夕張市は財政破綻し、市の医療も崩壊した。専門医療はおろかCTもMRIもゼロになり、救急車は病院まで67分かかることになった。死亡率は上がったのか？病院閉鎖前の5年と後の5年で死亡数も死亡率もほとんど変わっていない。日本人の3大死因である癌、心疾患、肺炎に因る死者は減り老衰死が増えている。また高齢者一人当たりの診療費も、北海道全体では78.1万円(H13~18)から85万円と増えているのに対し夕張は81.1万円から76.9万円に減少。救急車の出動回数も破たん前の約半分になった。

市の医療崩壊の結果、救急回数も医療費も減り自然死や施設での看取りが増えたのは何故か？

今後日本は経験したことがない驚異的な高齢化社会を迎える。2070年には40%を超えるというが東京や大阪は30%、田舎は50~60%なのかもしれない。いったいどういう社会になるのか。誰が助けてくれる？ どうすればいいのか？

財政・医療破綻、超高齢化社会の先輩「夕張」に学べることはないだろうか。

編集後記 ★給付型奨学金の中身を知って情けなくなった。住民税非課税家庭の子供が、月4万円の給付で私大に入学し下宿暮らしていると、政治屋は本当に信じているのか。★学ぶ権利—とは言うまい。国民に学びを保障する義務を怠った国に未来はあるか？★市街地を避けて「不時着」したオスプレイのパイロットには感謝すべきなのに、抗議に来るとは不愉快だと居直った沖縄駐留海兵隊司令官。そのうちに海兵隊員が婦女暴行や強盗殺人をしないことに沖縄は感謝しろ、と言いつつのだらう。★植民地意識丸出しだと沖縄県副知事の怒り。一方には被植民地意識丸出しの政府。沖縄県民や国民の声より米国の方が大切だと。(茂木)

医療の目的は、健康で楽しい人生をなるべく長く(子どもたちの財産を食いつぶすことなく)ということ。病院も医者も医療機器もただの道具である。

日本は世界中のCTの5分の1を買い占めている。人口当たりの病床数も入院期間も世界一。けれども県別の病床数と平均寿命の相関係数は男-0.27、女0.19。病床は増えても寿命は延びない。ただし医療費は増大する。(相関係数0.96)

病院要らずで最期まで元気に暮らせる人と街に共通する3つのことは——。

- ① きずな貯金 地域の見守りや訪問診療、訪問看(介)護、老健や特養との連携で高齢の認知症の人(例 82歳女性、96歳男性、104歳)が一人暮らしできている。
- ② 市民の意識改革—病院依存から病気予防へ—市民がこぞって肺炎球菌ワクチンを接種した。口腔ケア=歯磨きに汗を流した。結果肺炎の発症、死亡ともに隣町の10分の1になった。
- ③ 生活を支える医療—医療職と介護職の連携チーム、顔の見える連携—患者に笑顔と自由を取り戻すことは十分可能。

250枚を超えるスライドを駆使した分かり易い講演でした。

さらに詳しく知りたい方は、森田洋之医師の著作「破綻からの奇蹟~いま夕張市民から学ぶこと~」(南日本ヘルスリサーチラボ 発行1200円税別)をご覧ください。minamijhr@gmail.com です。

[文責・茂木俊郎]

平成29年度総会

2017年5月27日(土)に開催します。開催時刻、会場、懇親会等の詳細は次号でお知らせします。

第8回 Folkehøjskole in Hukusima 福島研修塾

2017年9月15日(金)~17日(日)に開きます。メインテーマは高齢者福祉、デンマークから北フュン島市在宅介護部長アネットNクリステンセンさんを講師としてお招きします。会場、募集人数、参加費用等については後日お知らせします。

発行所

〒292-0801

千葉県木更津市請西4-6-9

Tel : 0438-36-3565

お問合せ Tel : 090-9827-9262

茂木俊郎

NPO法人ホームページ

<http://www.djsli.com>

メールマガジンの申し込みはホームページからお願いします。